

# 令和4年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 和歌山高等学校(全日制)
校長氏名	竹内 伸之
作成日	令和 5年 2月 1日

## 1 教育目標

人間性豊かで社会に貢献できる人材の育成に努める 【めざす生徒像】 ・高校生にふさわしい学力を身に着けた生徒 ・強い身体とたくましい心をもつ生徒	・表現力、人間性が豊かな温かい生徒 ・地域や学校に誇りをもつ生徒
--	-------------------------------------

## 2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	・わかる授業、生徒主体の授業を実践したと思う(生徒・教師 90%)	・学校が楽しいと感じる(生徒 90%) ・いじめの解消率(100%)	・朝ごはんを食べた(生徒100%) ・遅刻による指導件数(前年比 -30%)	・学校の様子がよく伝わった(保護者90%)
重点目標	・基礎・基本の確かな定着 ・自らの進路に向け意欲的に学ぶ習慣の確立 ・読書活動の推進	・道徳・人権教育の充実をはかり、人権感覚向上の推進 ・いじめの未然防止、早期発見 ・仲間づくりの実施	・体力向上の推進 ・自らの人生を充実させるための生活習慣の確立 ・危機回避能力の育成	・家庭・地域との連携充実 ・運営協議会の意見を尊重した学校づくり ・地域の資源活用の推進
取組の状況【D】	・模試の計画的受検を勧め、より客観的な学力レベルの把握に努めた。 ・コロナ禍のなか、昨年同様回数は減ったが、外部講師等をうまく活用しながら、早い段階での進路目標の設定や学習への意識付けに努めた。 ・土曜講座による補充学習や入試対策講座・映像講座による学習指導に努めた。 ・コロナ禍における家庭学習の一環として、ICT機器を利用したオンライン授業を行った。 ・大学との連携において、大学教授を招き、定期的に小論文指導及び自己PR講座を行った。 ・カナダ・リッチモンド市の姉妹校であるパーマー校とメール交換	・登校指導を行い、服装指導・交通安全マナーの指導に努めた。 ・遅刻指導、SNSの適切な使用についての指導を実施した。 ・教育相談週間を設定した。 ・スクールカウンセラー等との連携をしながら、個々の生徒の実態把握に努めるとともに、不登校等の生徒の情報を教員間で共有し、指導体制の充実にも努めた。	・「早寝、早起き、朝ごはん」を推奨した。 ・避難訓練や交通安全教室を行い、危機回避能力の育成に努めた。 ・保健室だより等で、新型コロナウイルス感染予防をはじめ、定期的に健康面での留意点を生徒に注意喚起した。	・生徒の活動状況をマンスリータイムとして積極的にホームページ上にも発信し、情報発信の充実に努めた。 ・進路指導・生徒指導・人権教育、総合ビジネス科・デザイン表現科・普通科の授業等において、コロナ禍のなか、回数は減ったが、外部講師を積極的に活用し、内容の充実を図った。 ・高大連携事業を積極活用した。 ・コロナ禍ではあったが、地域や関係者の協力を得ながら3年ぶりに市高デパートを実施した。 ・コロナ禍のため、小学校児童や定時制生徒、育友会役員や地域防犯補導活動等地域の方との連携が進まなかった。
取組の成果と課題(評価結果【C】)	・ほとんどの教科でICT等を活用しながら授業内容、指導方法の改善に努め、全クラス・全教科で、オンライン授業ができるようになった。 ・補充学習の指導に努めたが、一部の生徒のみで、全体の効果を上げるまでには至っていない。 ・普通科における映像講座についても一定の成果を上げることが出来た。 ・進路ガイダンスをはじめとする進路指導を実施し、生徒の進路選択の契機づくりに貢献した。	・トーク&パフォーマーの鑑賞を活用しての人権学習はとても効果的であった。 ・スクールカウンセラー等と連携をしながら、個々の生徒の実態把握に努め、教員間の情報共有を図った。 ・生徒の清掃活動等については、より活発化しなければならない。 ・女子の服装については、指導がまだまだ浸透していない。 ・SNSの使い方には、まだ問題が残っている。	・コロナウイルス感染予防の取組の成果で、コロナウイルス、インフルエンザの感染を抑えている。 ・朝食の摂取率については生徒の実態をあまり把握できていない。 ・避難訓練は行っているが、津波に備えての校舎の最上階等への非難訓練までは行っていない。	・生徒の活動状況を学級通信やホームページで積極的に紹介できた。 ・コロナ禍のなか、回数は減ったが、外部講師を招き各専門の立場から生徒、保護者、教員に向けての講演をしていただき有益であった。 ・コロナ禍の影響で、保護者が来校する機会をあまり作れず、保護者の意見を広く聞くことができなかった。今後はそのような機会を多く設け、学校改革に生かす必要がある。 ・市高デパートでの対面販売等を通して、地域の方々との交流ができた。
次年度に向けての改善方法【A】	・各教員が積極的に公開授業を実施するなど、教員相互の授業参観を活発に行い、授業改善に生かす。 ・普通科についての映像講座、土曜講座の内容と方法について検討する必要がある。 ・早期の進路決定を促すためのガイダンスや講演アドバイスのさらなる充実を図る。 ・ICT機器、タブレットパソコンの授業でのさらなる活用を推進する。 ・大学との連携をさらに強化し、確かな学力の向上につなげる。 ・カナダ・リッチモンド市のパーマー校とのオンライン交流を定期的に行う。	・スクールカウンセラー等との連携を継続しながら、個々の生徒の実態把握に努め、教員間の情報共有を一層図っていく。 ・継続して登校指導、服装指導を行い、SNSを使う上での留意点等その指導を継続していく。 ・生徒の心を揺さぶり、人権意識を高める視聴覚教材のさらなる発掘を行う。	・津波対策も含めた避難訓練を実施する。 ・引き続き保健だより等を活用し、コロナ関係だけでなく、様々な病気の予防対策を充実させる。	・学校運営協議会での議論を踏まえ、学識経験者や地域住民、保護者の力を借りた学校づくりに努める。 ・コロナ禍後における、市高デパートの地域への貢献の方法について改善と研究をすすめていく。 ・スマートフォンで見やすい学校ホームページの開発を進める。 ・商品開発やネット販売の取り組みをさらに進めていく。 ・市高デパートでの電子マネー等の導入について検討を進める。

## 3 その他の課題

・校務分掌等の教職員組織をより効率的なものに改善を図り、各教職員が学校運営に積極的に関わる意識の更なる醸成を図る。 ・校務支援システムの導入をし、校務の効率化を図る。
--